

回目)

知識	(あ る・ふつう・な い)	備 考	香奈： 舞子：
体 力	(あ る・ふつう・な い)		
趣 味	(パソ通・バイク・読 書)		
特 技	(武 術・P S i ・ナンパ)		

回目)

知識	(あ る・ふつう・な い)	備 考	香奈： 舞子：
体 力	(あ る・ふつう・な い)		
趣 味	(パソ通・バイク・読 書)		
特 技	(武 術・P S i ・ナンパ)		

回目)

知識	(あ る・ふつう・な い)	備 考	香奈： 舞子：
体 力	(あ る・ふつう・な い)		
趣 味	(パソ通・バイク・読 書)		
特 技	(武 術・P S i ・ナンパ)		

回目)

知識	(あ る・ふつう・な い)	備 考	香奈： 舞子：
体 力	(あ る・ふつう・な い)		
趣 味	(パソ通・バイク・読 書)		
特 技	(武 術・P S i ・ナンパ)		

※このキャラクタ・メイキング表は、複写してからご使用下さい。

備考には、トランス・キャラクタ・システムの状況を記入すると便利です。

Project(I~IV~VIII)

Top Secret



はじめに

このマニュアルは、『テセラ』の物語を理解するための手助けとなり、アドベンチャーをより楽しんでいただくためのものです。

しかし、ゲームをプレイする前に読まなくても支障はありません/いいえ、プレイした後に読んでこそ、このマニュアルの内容が役に立つのです。

このマニュアルのタイトル『Project [I~IV~VIII]』。

これが、何のことだか分りますか? ゲームタイトルにも'IV'の文字が使われていたから、何か関係がありそうだけれど……? GAMEテクノポリスは、AVGを8タイトル製作するということを宣言しているのかな……?? ('VIII'は'8'のこと。……可能であれば、もっと製作したいのですけれどね)

きっと、プレイしたことがあるユーザーでしたら「ああ、アレね」と、口元に微笑を浮かべることでしょう。

このマニュアルは、そんなユーザーのアフター・ゲームのためにあるのです。

ですから、ゲームをプレイする前にここまで読んでしまったユーザーは、ただちに読むのをやめてプレイして下さい。

「オレに、命令するなあ!」とおっしゃるユーザーは……どうぞ、最後までお読みになって下さいな。

小説などでも、'あとがき'からお読みになる読者だっていらっしゃいますからね。

この『テセラ』は、マニュアルを先に読んで内容が分ってしまうほど(情報量が少ないということではありませんよ。ゲーム中よりも、詳しく説明してあるのですから)、単純な物語ではありませんので、どうぞ安心して下さい。

もしも、分ってしまったというユーザーがいたとしたら……そのユーザーの特技は、きっと'Psi能力'なのでしょう。

たぶん、真のエンディングで(…END "τεσσερα" …)と表示されることも、そのユーザーには知られてしまいましたよね?

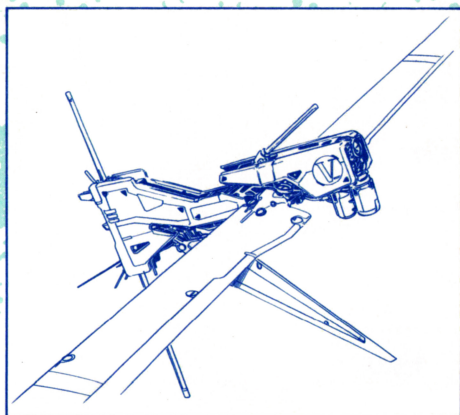
どうぞこれから、この『テセラ』の物語を、世界を……楽しんで下さい。

Staff

企画	GAMEテクノポリス
プログラム	NEAL (NEON Electric Amusement Lab.)
システム・スーパーバイザー	小池蛍光色 岡地常義
脚本・台詞	古雅ちはや
作曲・効果	GAN
編曲・構成	MUSE
キャラクターデザイン	平野俊弘
原画	平野俊弘 森木靖泰 岩沢潤也
動画	如月 忍 紅樹鳩来夢 なかむらめぐみ 平井龍彦 松本規之
原画・動画協力	有限会社平野俊弘事務所
演出	古雅ちはや
グラフィックス	YOSIMURA
デバッグ	大須賀守弘 伊集院コロレイヒ ダムダム小林 (ダムダム団) 鷲尾 緑 あちき平間 Turbo Slime てっちゃん
制作	井手健介
進行・広報・マニュアル	未峰村真希
デザイン	林田宏子
印刷	株式会社気生堂印刷所
協力	石川洋一 MISS TEIKU 小出真美子・武田宗典 徳間書店インターメディア株式会社 テクノポリス編集部 メディア企画室 有限会社アイデス 日本VMF株式会社 株式会社 山文 「IV-テセラ」製作委員会
販売	株式会社ニューズ
プロデューサー	古雅ちはや
監督	隠 居

'テセラ'と'ペンデ'

ゲームを終了したユーザーはもちろん、プレイ前にこのマニュアルを読んでしまったユーザーも、'テセラ'と'ペンデ'の関係についてはご存じだと思います。ここでは、その関係を具体的に説明いたします。



この'ペンデ'の目的とは、ゲーム中に説明してありますが、その'本来'の目的とは、このマニュアルのオフサイド・ストーリー中で

テセラ (声) 「……あのコの目的は、わたしを守ることではないのよ。

本当の目的は、わたしの……」

と、いった後のセリフの中に含まれています。テセラはディオに、何といたかつたのでしょうか？ それは、ユーザーの皆様の想像におまかせいたします。'ペンデ'というのは、ギリシャ語で'V'という意味です。

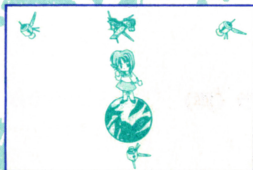
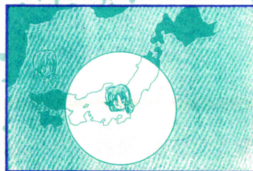
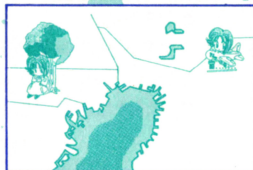
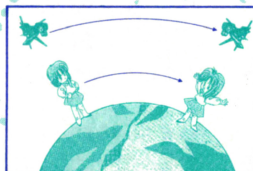
'ペンデ'は、'テセラ'の1400km上空にいます。そして、'テセラ'が750km以上移動すると、自力で移動します。

東京国際空港から吉祥寺に移動したぐらいでは、'ペンデ'は移動しません。この物語では、太陽エネルギーが衛星の推進用エネルギーに変換される（それも、随時使用することが可能なもの）とは考えておりません。

750kmの制限は、'テセラ'自身のためにあります。'テセラ'が'ペンデ'から情報を得るためには、この範囲内でなければ情報を認識出来ないのです。'テセラ'には'感覚インパルス'程度の生体電流があるに過ぎませんからね（'ブースター'なんて、もつての他ですよ）。

'ペンデ'は、固定位置から3000km四方の情報を得ることが可能です。これは、たとえば'テセラ'が音速で（毎秒331m）移動したとしても（そんなことは、絶対にあり得ませんが）、それを認識するためです。

'テセラ'の上空には'ペンデ'。それよりも上空には、静止衛星'エクシ'、'エプタ'と'オクト'があります。ただし'ペンデ'だけには、対地用兵器として2門の'レール・ガン'を装備しています。他の衛星は、通常の通信衛星と変わりありません。



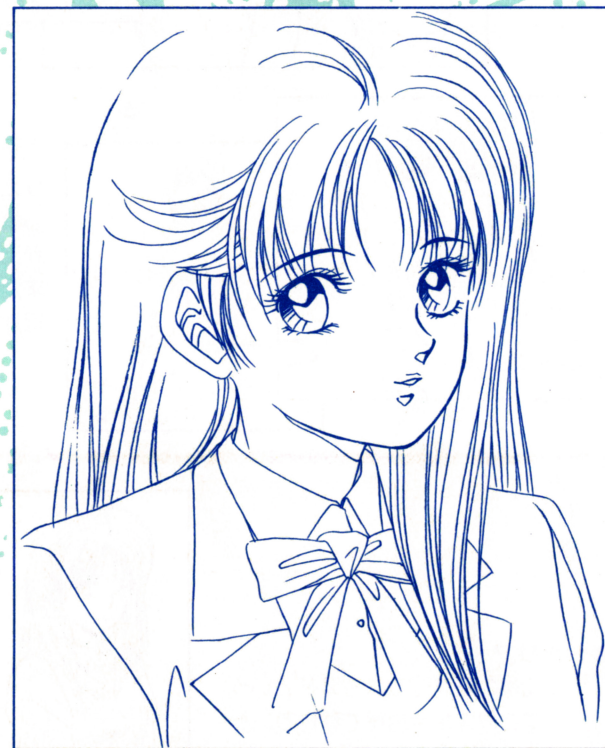
[Arms Of Charm]

No.71

姓 名：エナ・ダグラス

性 別：女

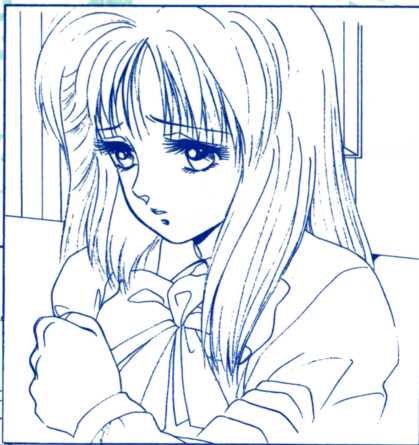
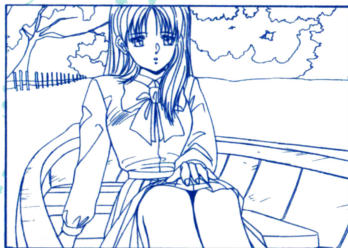
生年月日：197X年3月3日



主要人物の説明

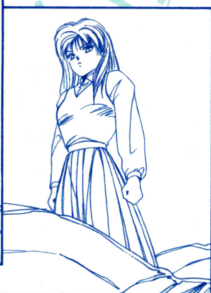
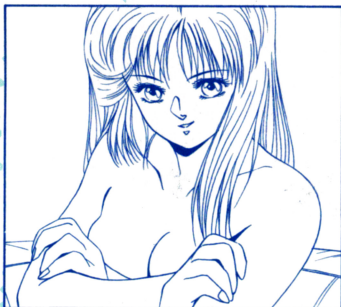
◆エナ

日本人の母とデンマーク人の父の間に生まれたハーフ。
2歳の時に両親を失って施設で育ち、5歳の時にサー・ダグラスに引き取られる。
現在17歳、ブラウンの瞳。



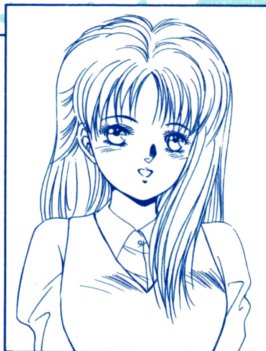
◆ディオ

テセラを保護することが彼女に与えられている任務で、あらゆる武器・兵器を使いこなすことができる。
また、格闘技の猛者でもある。
現在19歳、パープルの瞳。



◆トゥリア

13歳の時から「ミニーマイ」というブrouズル=娼屋で稼いでいた、その道のプロ。
現在16歳、ブラウンの瞳とピンクの唇。



Scenario IV：岬の外れ・研究所・テラス（夕方）

夕陽を眺めている、テセラとロバート。

ロバート「……キミを、'人間'にして上げるよ」

テセラ「ロバート……？」

驚いたテセラ、ロバートに向き直る。

テセラ「それ……どういうこと？」

ロバート「……そのままの意味だよ。ボクのテセラ……」

ロバート、夕陽から顔を背けると、テセラを見つめる。

ルビーよりも美しい、テセラの真紅の瞳。

ロバート「……愛しているよ、テセラ」

と、テセラを抱き寄せて、キスしようと顔を近づける。

テセラ「いまは、イヤ……」

と、ロバートから顔を背ける。

ロバート「……テセラ？」

テセラ、ロバートの腕から逃れると、手摺りにもたれる。

テセラ「わたしを'人間'になんて……どうして？」

ロバート「……どうして？ キミだって、本当の'人間'になりたいんじゃないのかい？」

テセラ「でも、エナがいるわ。それに……他の娘たちは、どうするつもりなの？」

ロバート「エナも、他の娘たちも……もう必要ないよ。ボクにとっても、プロジェクトにとっても……必要なのはテセラ、キミだけなんだから」

と、テセラに歩み寄る。

ロバート「キミは、ボクを愛してくれている……そういつてくれたらどうか？ ボクだって、キミを愛している。キミが、ボクのラボに留まってくれるのなら、あのディオすらも必要がなくなるんだ。キミは、'人間'になれるんだよ」

テセラ、愁い顔でロバートを見つめる。

テセラ「でも、それは……いけないことだと思います」

ロバート、ムツとして顔をしかめる。

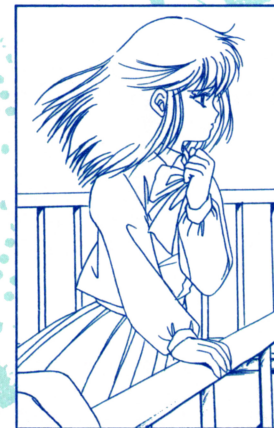
ロバート「キミが、どう思おうと……明日、'ベンデ'との最終アクセス・テストを終えてから、ボクはエナたちを始末するつもりだ。そのつもりでいたまえ！」

テセラ「ロバート……！」

ロバート、テセラに背を向けてると、立ち去って行く。

その場に1人取り残された、テセラ。

テセラ（声）「……その日の夜。わたしたちは、ラボから脱走したの。いまから……そう、5年前のことになるわね」



Scenario III：娼屋‘ミニーメイ’・個室内（深夜）

上品なムードランプがともされている室内。
裸のトゥリア、寝台の上で中年紳士（いったい、
どんな‘紳士’なんだ）の両足の間に顔を沈めて‘奉仕’
している。

中年紳士「……うっ、うう」

中年紳士、トゥリアを見ると、その頭を撫でる。
と、顔を上げてニコッと微笑する、トゥリア。

トゥリア「てへっ（無声音）……」

中年紳士、自分の枕元を示す。

中年紳士「……ここへおいで、トゥリア」

トゥリア「ん……」

と、身体を起こすと、膝で歩いて中年紳士の隣りに移動する。

そして、中年紳士の身体に触れつつ、その脇に横たわる、トゥリア。

トゥリア「……どうしたの、オジサマ？ 元気ないね……？」

中年紳士「トゥリア……わしは、妻とは死別しているし、子供たちはもう成人して家にはおらん。どうだ、わしの家に来て一緒に暮らさないかね？」

トゥリア「……ダメ。だってアタシ、‘ハウス’や‘ホーム’が欲しくて、日本に行くんじゃないもん」

中年紳士「ここをやめて、日本へ行って……どうしたいの？」

トゥリア「わかんないけど……でも、そのためにここで働いて、お金を貯めているの。それに、アタシ1人で行くんじゃないのよ……テセラたちと一緒になの」

中年紳士「この‘ミニーメイ’に、そんな名前の娘はいたかな？」

トゥリア、幼い女の子の様に顔を歪めて笑い出す。

トゥリア「アハハ……まさか！ 大好きなロバートにだって、まだ身体を許していないのに……テセラには、ここで働くことなんて出来ないよ」

中年紳士「それじゃあ……？」

トゥリア「アタシの知合い……‘お姉さん’みたいにしてくれる、とっても優しい女性なのよ」

中年紳士「わしほどの‘馴染み’にも、紹介してくれないのかね？」

トゥリア「ムリよ……アタシだって、もう1年も会ってないもん」

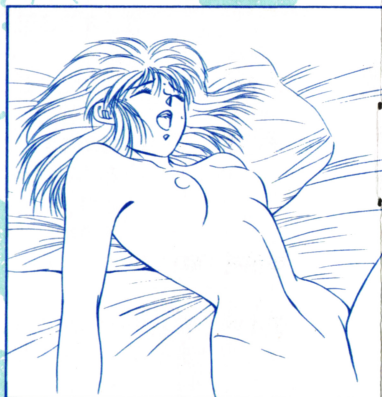
中年紳士「それじゃあ、日本へ行くことなど忘れてるんじゃないのかな？」

トゥリア「そんなことないもん。そのことは、もうどうでもいいじゃない。オジサマとも、今夜で最後なんだから……アタシ、う〜んとサービスして上げる！」

中年紳士「おいおい、わしはもう……」

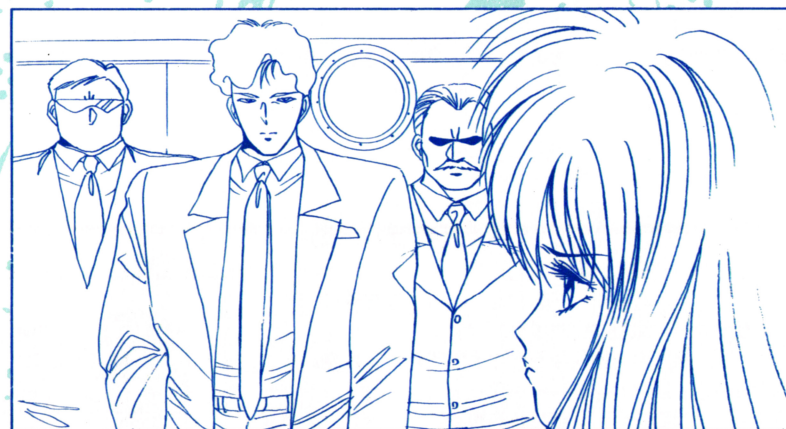
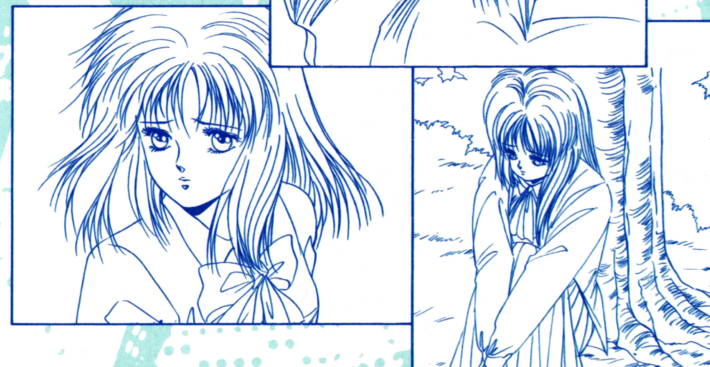
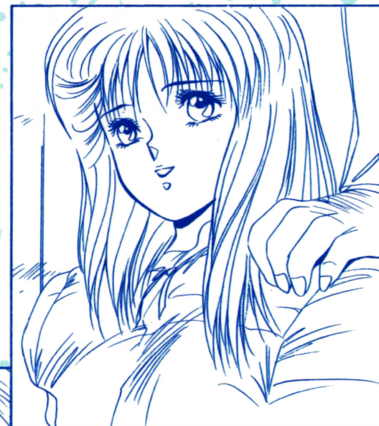
トゥリア「ウフッ……オジサマ、このトゥリアにおまかせっ！」

と、中年紳士に抱きつく。



◆テセラ

ある国の最高軍事秘密に関係がある美少女。
いまから3年前、エナのために日本にやって来た。
現在19歳、ピジョンブラッドの瞳と真紅の唇。



◆ドクター・ロバート

[I~IV~VIII]計画のプロジェクト・リーダーで、テセラを愛している。

精神外科医、26歳。

◆サー・ダグラス

ある国の国防省科学情報局の(元)局長。

[I~IV~VIII]計画最高責任者。

オフサイド・ストーリー

*これからのシナリオは、ゲーム中には含まれておりません！

Scenario I : 川嶋医院・院長室 (朝)

壁にある鳩時計の針は、7時55分を示している。ソファの上で、簾を閉じてグッタリと横たわっている、絵奈。

玄太と川嶋先生、その向かい側のソファに座って絵奈を見つめている。

川嶋先生の左頬、わずかに赤く腫れている。

玄太 「あとは、川嶋君しただよ。わしも、出来るかぎりのことには協力するつもりだが……」

川嶋先生 「……本当に、大丈夫なのだろうか？」

玄太 「しかたがないだろう、融合には時間がかかる。そうするために、11年間という長い年月を費やしたケースだってあるのだからな」

川嶋先生 「そうなんですか……う、痛つ」

と、自分の左頬を手を押さえると、顔をしかめる。

玄太、それに気がつくと、川嶋先生に微笑する。

玄太 「なんだ、痛むのか……ずいぶん腫れているな？」

川嶋先生 「ええ……歯が折れて、口の中を切ってしまいましたから」

玄太 「そいつは、凄いな。あとで、野田病院に来ればいじやないか。川嶋君が来たと知ったら、野田院長みずからに診察してもらえるんじゃないか？」

川嶋先生、苦笑しく微笑する。

川嶋先生 「院長先生にだけは、ちょっと……遠慮しておきますよ」

玄太 「でも、まあ……結婚もせずに、娘が1人出来たんだ。歯の1本ぐらいいは、あきらめるんだな」

と、チラリと自分の腕時計を見る。

玄太 「……そろそろ、目を覚ますぞ」

不意に、壁の鳩時計が‘時’を告げる。

(SE:「ポッポー」=鳩の鳴き声×8回)

絵奈 「うっ……ううん (無声音)」

と、わずかに身動ぐと、ハッと簾を開く。

玄太 「どうやら、気がついたようだな」

玄太と川嶋先生をうつろに見渡す、絵奈。

絵奈 「……ここは？ あたし……？」

川嶋先生、絵奈に歩み寄る。

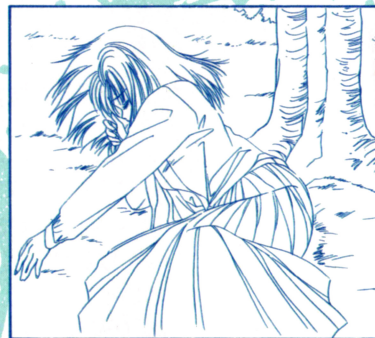
川嶋先生 「わたしが……分るかね？」

絵奈、川嶋先生をしばらく見つめる。

絵奈 「……伯父さん。田さんのお兄さん……」

玄太、ニヤリと微笑して、川嶋先生の背中をポンと叩く。

川嶋先生 「絵奈……今日から、ここがキミの家だよ」



Scenario II : 砂漠のオアシス・研究所・個室内 (夜)

照明が消されて、月明りに照らされている室内。

その天井では、監視用のカメラ・アイがゆっくりと左右に首を振っている

ティオ、カメラ・アイに背を向けて、両膝を抱える様にして寝台で眠っている。

テセラ (声) 「ティオ……？」

ティオ 「ん……テセラか？」

と、嬉しそうに簾を開ける。

ティオ、身動きはせずに、瞳だけを動かして後ろを見ようとする。

ティオ 「なあ、なあ……どうだった、今日の訓練は？ 見ていてくれたかい、テセラ？ アタイは、よくやったろう？」

テセラ (声) 「とても、よかったわよ……ティオ」

ティオ 「たった……それだけかい、今日の感想は？」

テセラ (声) 「クスツ……‘満点’の出来だったわよ。もうスピードもテクニックも……あなたの方が、あの教官なんかよりも上手だと思うわ」

ティオ 「……本当か？ 本当にそうだったか……？」

テセラ (声) 「本当よ。あなたは、ここの陸軍駐屯基地で誰よりも強い戦士だわ」

ティオ 「これで、テセラを守って上げられるよな？」

テセラ (声) 「ええ……頼りにしているわよ、ティオ」

ティオ 「アタイを、頼りに……？ そう……か、テセラはアタイを頼りにしているんだ」

テセラ (声) 「そうよ。わたしが本当に頼れるのは、ティオ……あなただけだもの」

ティオ 「それ……本当か!? でも……テセラには、‘ベンデ’がいるだろう？ アタイがいくら強くなったとしても、アイトにはかなわないよ」

テセラ (声) 「……あのコの目的は、わたしを守ることではないのよ。本当の目的は、わたしの……」

(一問一)

ティオ 「……テセラ？ どうしたんだ、テセラ……？」

ティオ、イライラと落ち着きがなくなる。

ティオ 「どうしたんだよ、テセラ……!？」

と、起き上がって振り返る。

しかし、ティオの後ろには誰もいない。

不意に、天井のスピーカーから監視員の声がする。

監視員 (声) 「どうした……!？ 何かあったか？」

ティオ、カメラ・アイをキッとにらみつける。

ティオ 「フンッ……なんでもないよ!」

と、再びカメラ・アイに背を向けて、寝台に横になる。

